

# 上顎拡大

睡眠時無呼吸症候群をとりまく病気

## 2011年11月

前号に引き続いて、世界の睡眠医学をリードするスタンフォード大学の狙いについて説明しましょう。私が新潟病院に赴任して間もない頃（2000年前半）、サンフランシスコで開催された学会のついでにスタンフォード大学に立ち寄りました。一通りの見学をしていると、かのクリスチャン・ギレミノー教授（睡眠時無呼吸症候群の発見者）が私に声をかけてくれました。

「君は日本から来たのかね、睡眠時無呼吸症候群の予防は上顎拡大手術にかかっている。上顎の拡大手術でリスクの高い小児を予防するんだ。（もちろん英語でしたが）」

上顎拡大手術とは、上顎の正中を奥から手前まで粘膜下で一直線に切って、口腔に装着するネジ付き拡大装置で、切り口に骨が伸びるのに合わせて上顎を左右方向に拡大する治療法です。

しかし、日本の貧しい健康保険ではそんな治療法を行うことも、そして予防医療を行うことすらも許されておきませんので、帰京しても無頓着でした。しかし、最近の各方面の研究で、ギレミノー教授の言う通り、上顎拡大術の対象となる小さい上顎は、鼻づまりや低位舌になりやすく睡眠時無呼吸症候群の原因であることがわかりました。

残念なことは、わが国自慢の国民皆保険は、例え高額な保険料を払っていても予防には使えません。疾患の予防は自己負担で、というのが厚生労働省の考えです。

ボヤで消せれば全焼を免れるのに、そして、予防できれば医療費も少なくて済むのに、残念。